

■井口傑教授に聞く トパーズ プレミアムを監修・開発—

「女性の足とトパーズ プレミアムの機能特徴」

—ドクター・アッシーでは40代男性向けの機能を付加しましたが、今回のトパーズ プレミアムでは女性用としてどこに機能の焦点を当てたのですか。

井口 ドクター・アッシーでは、アーチの維持を目的にしたインソールに機能を盛り込みました。今回は女性で、ある程度の年齢になると生じやすい内返し捻挫を起こしにくくすること。また日本人に多いO脚、及び悪化すると変形性膝関節症になることを防ぐこと。そして外反母趾の女性がジャストサイズで靴を履けるようにバニオンポケットの働きをするスリットをつけたことが、今までの靴にはない新しい機能特徴です。

—上に挙げた3つのポイントについて、もう少し詳しい説明をお願いします。

井口 女性の捻挫の99%は内返し捻挫によるものです。これはヒトの骨格が内返しするようになっているからです。中年女性の3人に1人は外側靭帯が緩んだ状態にあるため、より捻挫しやすいのです。

また、日本人に多いO脚は医学の世界では治療が確立しています。しかし、今回のシューズの開発にあたり、症状が起きる前に発症を防ぐ方が合理的だと考えました。

井口 足に当たらない大きい靴が良い靴だという風潮があります。今の中年女性は戦後生まれ

トパーズ プレミアムは①内返し捻挫を予防する②変形性膝関節症の発症を遅らせる③外反母趾でもジャストサイズで履ける

販の靴では上手くいかない場合があります。そこでトパーズ プレミアムでは、外側に転ばないように踵外側部をフレアー形状にしました。これにより接地面積も大きくなりますので安定性も上がり、転倒や捻挫が起きにくくなります。またフレアーがあることで自然に体が反応し、外側に捻る作用もあります。

トパーズ プレミアムは市販されますので、このフレアーは治療用装具（通常6~8mm）の

れ。ヒールのある婦人靴で足をサイドからサポートして育った世代です。

それが40代になって、急に楽だからと幅の広い靴を履き続けるとどうなるか。アーチが潰れかかっているときに、サポートを取ってしまうのですから。そして外反母趾には当たらない靴が良い靴だと、Eサイズの人が4Eサイズの靴を履いて、ますます症状を悪化させる例もあります。



井口傑（いのくち・すぐる）氏

慶應義塾大学医学部総合医学研究センター教授、日本靴医学会理事長

【専門分野】足の外科、靴医学

今回のトパーズ プレミアムの母趾球部には、ストレッチ素材を内張りしたスリットを入れました。外反母趾をスリットで逃がすことにより、本来の足に近いサイズで履けるようにしたことが3つ目のコンセプトです。

—どのような人に履いてもらいたいですか。

井口 内返し捻挫や健康に良いからといって歩きすぎ、副作用で膝が痛くなることを防ぐ。さらには膝関節症の進行を遅らせること。そして開帳足や外反母趾にもジャストサイズで履け

るようにバニオンポーチの働きをするスリットを入れた靴でできました。捻挫しやすいとか、歩くことは好きだが膝が痛い、外反母趾でゆるゆるの靴じゃないと履けない人に適した靴だと思います。

私は医者として35年間、『いい靴を履きなさい』『サイズの合ったものを履きなさい』と患者さんに言ってきたが、実際にはそういう靴がなかった。それが今回、世界長さんとトパーズ プレミアムの開発で実現できました。

工場リポート

国内生産を担う岡本ソーアイ

「トパーズ プレミアム」の生産を担当するオカモトの子会社、岡本ソーアイを訪ねた。福島県田村郡小野町。福島県のほぼ中央、郡山から南東へ伸びるJR磐越東線に沿って約50分、小野新町駅からほど近くに岡本ソーアイはある。

設立は1981（昭和56）年。もともとはシューズの縫製工場として立ち上がったが、現在はオカモトグループのシューズ製造技術を集約したマザー工場に位置付けられ、海外生産における技術指導の拠点でもある。この工場では現在、競技用スポーツシューズを中心に、カジュアルシューズ、紳士靴を生産している。

今回、世界長の自社ブランドのなかで

中心的な役割のひとつを担うトパーズのプレミアムラインをつくるうえで、革靴の縫製技術をもつこと、そして底付けまでの一環生産が可能な岡本ソーアイの技術が欠かせないと判断された。さらに、このトパーズ プレミアムの国内生産は、オカモトグループとして製販一体理念確立のためのスタートでもある。

供給過剰による在庫过多が問題になっている昨今のシューズ業界で、製販一体となった国内生産による付加価値の高いものづくりを実現し、在庫を持たないクイックデリバリー体制を築くことが狙いだ。

世界長では、このトパーズ プレミア

ムを皮切りに同社の展開ブランド（ドクター・アッシーやフィラなど）の国内生産を増やすことも考えており、岡本ソーアイには将来的にカジュアルシューズのラインを増やす構想もある。

競技用スポーツシューズやオカモトオリジナルの紳士靴生産の実績がある岡本ソーアイだが、レディスカジュアルシューズの生産は初めて。製造担当者は「とても繊細。一つひとつの工程から目が離せない」と、その難しさを語るが7月から各段階をクリアし、テスト生産を3回重ねて本生産に入っている。オカモトグループの製靴技術のすべてを注入した自信作が、12月から店頭に並ぶ。

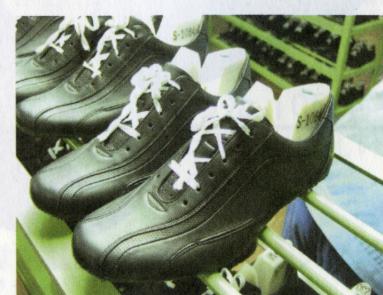


緑豊かな自然に囲まれた岡本ソーアイ。福島県田村郡小野町大字谷津作字南作118



岡本ソーアイ前列左:松本富士夫社長、右:武内峰也取締役、後列左:川崎博之工場長代理、右:草野金光研究開発課課長

製販一体でクイックデリバリー体制構築へ



アッパーが完成。底付けを待つ



接着剤は手作業で塗る



トパーズ プレミアムの完成品